

◇この議事速報（未定稿）は、審議の参考に供するた
めの未定稿版で、一般への公開用ではありません。
◇後刻速記録を調査して処置することとされた発
言、理事会で協議することとされた発言等は、原
発言のまま掲載しています。
◇今後、訂正、削除が行われる場合がありますの
で、審議の際の引用に当たっては正規の会議録と
受け取られることのないようお願いいたします。

○根本委員長 これにて守島君、阿部君の質疑は
終了いたしました。

次に、鈴木敦君。

○鈴木（敦）委員 国民民主党の鈴木敦です。三
十三歳でございます。

本日は、滋賀県の斎藤アレックス議員に補助に
入っていただきまして、三十七歳、二人でお送り
したいと思えます。ちょっと入れ替わっただけで
すね、先週から。

一番最初にお伺いしたいのは、これは、私が国
會議員になって必ず総理に聞こうと思っていたこ
とです。

非正規をずっとやっておりまして、低賃金で働
いてまいりました。そんな中で、私、人の世の過
ごし方は三種類に分けられると思えました。人生
を楽しむこと、日々を過ごすこと、そして、その
日を耐えること。高収入の方々は人生を長期的に
どうやって華やかなものにするかを考えられると
思います。平均ぐらいの方々日々の計画を立て
ることができると思いますが、低賃金で働く方、

特に非正規の方々はその日をどうやって暮らして
いくかを考えざるを得ない。

私の世代はリーマン・ショックと東日本の震災
がありました。今は、新型コロナウイルスがあり、またウ
クライナの紛争があり、物価高があるという状況
でございます。こういうときに一番問題になるの
は非正規で働いているの方々。生活が苦しくなっ
て、ぎりぎり踏みとどまって毎日暮らしている人た
ちは、中長期的な計画を立てることができないん
です。

今日も、先週もそうですが、この予算委員会の
議論の中で労働の話、たくさん出ていました。リ
スキリングの話もありました。大変重要な課題で
ございますが、これらは中長期的な課題であって、
今すぐには実現が不可能なんです。

もう今、出勤された先生方もいられると思いま
すので分かると思いますが、大分寒くなってきました。
物価が高くなって、気温も下がってきて、
あしたどうやって暮らそうか考えている人たちは、
それを待っているいとまはありません。今すぐに、
短期的で、そして直接的な支援が必要です。そこ
にこそ支援の輪を、力を出していくのが我々国会
議員の責務ではないかと思えます。

どうか、私も当事者の一人として総理に提言申
し上げたい。短期的に、そして早期にこうした低
賃金の方々、非正規で働いている方々に支援の手
を伸ばしていただけますよう、当事者の一人とし
て、全国の低賃金そして非正規で働いている皆様
を代表してお願い申し上げます。総理、
お願いします。

○岸田内閣総理大臣 まず、基本的には、社会と
して、誰もが納得した待遇の下で、一人一人の希
望に応じて、そして多様で柔軟な働き方を選択で
きる社会を目指していくことだと思います。
しかし、現実は大変厳しいものがあり、委員御
指摘のように、未来を選択するどころか目の前の
課題に取り組まざるを得ない、大変苦しい思いを
されておられる方がいるということ、こういった
方々に対して、政治の立場から思いを巡らしてい
かなければならない。これはそのとおりだと思
いますし、政治はその部分にしっかりと思いを巡ら
していく、努力を注いでいく、これは大きな責任
を担っていると考えます。

そして、御指摘のように、先ほど来の議論、リ
スキリングの議論と、中長期的に日本の賃上げを
実現する、構造的な議論であります。こうした中
長期的な議論ももちろん大事ですが、目の前の賃
上げ、物価高騰に的確に対応する必要がある、こ
のことも忘れてはならないと思えます。

ですから、賃上げの議論は、まず目の前の物価
高騰に現実的に対応する議論と、そして、それを
持続させるための中長期的な議論、これを併せて
議論することが大事であると思えます。

非正規の方々に対して、まずは生活、仕事を守
らなければいけないということで、エネルギーや
食料を始め様々な政策を用意する、こうしたこと
と併せて、非正規の方々の待遇改善のために新た
に、労働基準監督署の体制を強化する、待遇差が
問題となる事案、これを即把握することによって
同一労働同一賃金の遵守を徹底するなど、こうし

た対策から始めて中長期的な課題に取り組んでいく、こうした具体的な政策を政府としても用意をしていきたいと考えております。

○鈴木（敦）委員 なぜ私が最初に年齢を申し上げたか。私三十三、アレックス三十七。なぜ申し上げたかという、その三十代の方々というのは、いろいろな荒波にもまれて、状況があつたんですね。

ある人の話を、二人の人間の話をしましょう。一人は、いい大学を出て、大手の一流企業に入つて、今は首相秘書官として総理とお仕事をされている。もう一人は、同年代で、大学を出ることはできなかった、望みの仕事に就くこともできず、非正規で働かざるを得なくて、十年間思いをためて国会議員になつて総理と議論をさせていた、だっている方。この二人を隔てるものはそんなに大きなものではないんです。

ですから、近くにあるものにもっと光を当てていただきたい。形だけではなくて、是非、追加の経済対策等に入れていただきたいと思ひます。

時間がありませんので、幾つか飛ばさせていただきますが、経産大臣にお願いいたします。

我が国の半導体についてのお話でございますが、世界では、今、半導体というのは戦略物資になつております。我が国の半導体、日の丸半導体と言われているのはもう三十年も昔の話、私が生まれた頃ですね。今は、半導体にかける予算のかけ方が我が国とは桁違いです。

お隣の韓国だけ例に挙げますけれども、韓国の場合、五十一兆円もかけて二〇三〇年までにやる

うとしているときに、我が国は何千億円でやっているわけです。これじゃとても、ひっくり返つてもかなわないんです。

どうか、今後の考え方、もう財源の話は結構です。どうか、経産大臣としてどうやって戦略的に戦っていくか、御答弁をお願いいたします。

○西村（康）国務大臣 お答え申し上げます。

御指摘のとおり、半導体は、デジタル化、新しい時代ですね、それから脱炭素化を含めまして、まさに、世界が競い合うキーテクノロジー、そして安全保障にも関わる大事な技術だというふうに認識しております。御指摘のような、各国競い合う中で、それぞれの支援策に比肩するような国策、匹敵するような国策としての支援が必要だという認識は共有しております。

そうした中で、昨年、法改正を行つて、令和三年度補正予算で、先端半導体の製造基盤整備の予算として七千五百億円超を計上しております。これによつて、熊本のJASM、先端ロジック半導体の新工場建設を始め、複数の大規模国内投資を実現しているところであります。

JASMの話も聞きましたが、スピード感、規模も含めて、スピードは各国よりも速いという御指摘もありましたし、規模感も匹敵をするものだという評価もいただいております。

あわせて、熊本大学を始め、工業高校、高専などで半導体の事業が始まるなど、人材育成も進んできているところであります。

まさに、御指摘のような戦略的に意義深い分野でありますので、円安も活用して、国内への投資、

これが進むような政策をしつかりと実現していきたいと思ひますし、それを促すような支援策、これを経済対策の中でも、また今後もしつかりと実現し、国内にこの半導体の基盤、定着をさせていきたいというふうにご検討しております。

○鈴木（敦）委員 では、最後に、これをやるための財源のお話をします。

質問は飛ばさせていただきますが、これは百四十九円レートで計算した場合の我が国の外貨準備高の総額になります。百四十九円ですから、今ちょっと増減していると思ひますけれども。

今、総理の答弁、過去の本会議やアレックス議員の質問の中にもありましたけれども、これを使うのは適当ではないと総理はおっしゃっているんですが、我が国は、これだけの外貨準備高、ほとんどドル建ての米国債を持っているのに、何のために持っているのかというお話になります。

ちよつとずつでも、これ、含み益の話は今まで総理とかアレックス議員は言っていましたけど……

○根本委員長 鈴木敦君、簡潔にお願いします。

○鈴木（敦）委員 済みません。

これは、本体そのものを使う議論をするべきではありませんか。

○岸田内閣総理大臣 委員御指摘のように、一ドル百四十九円と計算すると、百八十四兆円あります。ただ、これは、今年の一月の段階では百四十二兆円でありました。これは、要は状況によつて急速に変化するものであります。そして、これ自体、市場に対して将来の為替介入に備えて保有するものであります。

今後の状況に対して為替介入に備えておくことは重要であるということを示しているわけですが、あわせて、この外貨を円に替えることが実質的にドル売り・円買いの為替介入そのものに当たってしまうという点において、これを財源として考えることは不適切であると説明をさせていただいている次第です。

○鈴木（敦）委員 時間ですので、済みません、時間が過ぎました。終わります。